

2015年2月15日 泉の里地里山里水定例観察会報告

場所： 泉ビオトープのふるさと ～ 谷戸城

天気： 晴れ

今回は、伏見が体調不良で欠席したため、参加された方からの写真とコメントで報告します。

観察路は風は強かったものの、気温はさほど低くはなかったようで、あまり正確ではない温度計で8℃くらいあったのでしょうか。風のない谷戸城の向こう側はあたたかでした。

谷戸城の南側斜面の下の道沿いに青、黄色の小さな花がたくさん咲いていまして「もう咲いていますね」「いつももう咲いてずっと春まで咲き続けますよ」などと話しながら帰りました。

(浦野さん)



手前はハンノキ、その右側の低い木はヤマボウシ、左側はハンノキ若木 (写真 浦野さん)

裸木のように見えますが、近くによってじっくり観るといろいろなタイプの冬芽に気が付きます。葉を落とした木々たちは、冬の時期から、もう小さな芽を持っています。厳しい季節のはじめから春の準備をしているのですね。

全ての葉を落とさないと、新しい芽吹きはやってきません。葉を落とすことに躊躇していると新しい季節に対応できないのです。教えられますね。

(以下は矢川さん)

スタート時は、南の空は晴れており、気温も7度と比較的高めでしたが、八ヶ岳からの冷たい風でかなり寒く感じました。

北の空は、八ヶ岳は雪雲に隠れて見えませんでした。終了時には姿を現しました。

浦野さんのお宅の辺りは雪が降っていたとの事でした。



谷戸城の南側は、風が遮られ、春間近の感じでした。

(風が強かったので) 谷戸城には登らず、考古資料館前の道をそのまま進み、ショートカットしました。10時過ぎにスタート地点に戻りました。

ビオトープ水路は、雪が解け始めたのか、水量が多かったです。



移植して、育成中の山野草。囲いの白いロープが、かなりのところで切れていました。積雪に伴う枝の落下 + ビニルの劣化 でしょうか？



クヌギカメムシの卵：クヌギの樹皮に産みつけられていました。



ハンノキとヤマボウシの向こう、
(おそらく) ツグミが、刈り取られた谷戸城側の水田でついばんでました。

工口さんが、ビオトープ下流の手すりにある、カマキリの卵を教えてくださいました。

谷戸城南側では、風もなく春が近くまでという感じで、浦野さんのレポートにあった様に、南斜面にはオオイヌノフグリ、ホトケノザなどが、もう花を咲かせてました。



スギが、遠目に赤茶色になって、今にも花粉が飛び散りそうでした。

付録で八ヶ岳の森からのスナップ(伏見)



マイナス6度の紅葉



飛沢ため池 ルリビタキ



兎と狐の追っかけっこ



八嶋湿原の日の出

足跡の跡に足跡雪の道
朝の木々霧氷の花を零し立つ